

日立市立久慈中学校

1 主題名 「命」について考えよう D- (19) 生命の尊さ

2 教材名 「命の選択」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本教材は、中学校学習指導要領の内容項目 D- (19)「生命の尊さ」を受けて設定したものである。ここでは、「命の終末期の対応から、あらゆることを視野に入れて熟慮し、その選択が自らの責任として問われる状況の中で、命を尊重するとはどういうことかを考えさせること」をねらいとしている。複数の立場からの意見に触れることや話し合いを通して、命を尊ぶとは、生きるとは何かについて葛藤することで、今を生きる自分という存在の大切さに気付き、教材にある「死」から、自他の「生」を尊ぼうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態

生徒たちは第3学年理科の「生命のつながり」の単元において、生命が卵と精子の受精からできた尊いものであることを学習したり、遺伝子組み換えの是非について自分の考えを論じたりする等、生命や生きることについて考える機会をもったことがある。また、社会科の公民の学習においては「自由権」や「生きる権利」について学習しており、「生きること」や「誕生」から生命の大切さを知る機会は前述のように他教科を通して感じる機会はある一方で、中学生にとってはまだ遠いとイメージされる「死」から考える機会は少ない。だれでも平等に訪れる死に対しての向き合い方、そして残された人の思いからどのように生を全うしていくことがよいのかを考えさせ、自分や周りの人の生き尊ぶることを尊重する心を養う必要がある。

(3) 資料について（資料名「命の選択」出典名「中学道徳 3 光村図書」）

本資料には、延命措置を望まなかった祖父に反し了解してしまった家族が葛藤する読み物と、「尊厳死」を巡る新聞への投稿が書かれている。肺炎で寿命が残り少ないと察した祖父は父と母に「延命措置はしないでほしい。たくさんの管や器械につながれて死ぬまでの時間を引き延ばすことはしたくないんだ。」と尊厳死を表明していた。しかし、苦しむ祖父の姿を見て苦しみから救い、少しでも長く生きてほしい、という思いから父と母は祖父に人工呼吸器をつけることに同意してしまう。僕の「おじいちゃん、ごめんよ、ごめんよ。」、父の「父さんにも（延命措置が正しいか）わからない。」といういろいろな考えの立場からのつぶやきは痛いほど生徒の心に刺さる発言となっている。特に、「父さんたちは、どうすればよかったんだろう…」という父の発言はそのまま生徒自身の問いにさせたい。また、物語のあとには新聞に投稿された様々な考えの記事が掲載されている。「尊厳死反対」「尊厳死賛成」「自ら決めた最期は立派」と三者三様の立場から書かれた新聞記事は、考えがまとまらない生徒が共感し、自分の考えを強化させる手助けになったり、あるいは、反対の意見が書かれた記事は生徒の考えを揺さぶったりする。これによって、グループでの話し合いでより多面的な意見の交換に寄与することが期待される。現在の日本では尊厳死や安楽死にまつわる法律は制定されていないことから、中学生というこれから日本を担う立場の存在から「死」について多角的・多面的に考えさせ、生命の尊さについて再認識させ自他の生命を尊重する態度につなげたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

- ・ 尊厳死についてさまざまな立場の意見に触れ、命を尊ぶとは、生きるとは何かについて葛藤することで、今を生きる自分という存在の大切さに気付き、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。

(2) 準備・資料

ワークシート、掲示資料、PC、プロジェクタ

(3) 展 開

	主な活動と発問 ◎主発問 ○補助発問	予想される生徒の反応	・生徒への援助・支援 ◎評価
--	-----------------------	------------	-------------------

<p>導入</p>	<p>1 命について学んできたことを振り返る。</p> <p>○ 命はどうして大切なのでしょうか。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 命の終わり方はどのようにあるべきか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つしかないから。死んだら終わるから。 ・限りがあるから。必ず死ぬから。 ・受け継がれてきたから。繋がってきたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んできた命について大切である理由をまとめて板書で確認する。 ・「5 あの日 生まれた命」の学びの記録を見返すよう促し、自分の命の尊さを想起させる。 ・あらすじの確認や発問時に場面絵や登場人物のイラストを貼り、内容を理解しやすくする。
<p>展開</p>	<p>3 教材を読んで話し合う。</p> <p>(1)教師が範読する。</p> <p>(2)祖父と父の気持ちについて考える。</p> <p>○ ぼくが「おじいちゃん、ごめんよ、ごめんよ」と言ったのはなぜか。</p> <p>◎ 「父さん達はどうすればよかったんだろう…」というつぶやきに、何と声をかけるか。 (主発問)</p> <p>4 新聞記事を読んで自分の考えを書く。</p> <p>○ 尊厳死に賛成か、反対か。</p>	<p>【祖父】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分のものだから、死に方は自分で決めたい。 ・機械で繋がれて延命されている命は本当に生きているといえるのか疑問に思ったから。 <p>【父】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少しでも長く生きてほしいと思ったから。 ・もしかしたら症状がよくなるかもしれないから。 ・祖父のことを思って延命措置をしたことはよく分かる。 ・祖父は人間としての尊厳をもって死にたかったのではないか。祖父の思いを尊重した方がよかったと思う。 ・自分は選べなかった。命の選択をした父はすごいと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命に生を全うすべきだから安易に尊厳死の選択を残すことには反対である。 ・本人の意思の尊重が最も重要視されるべきだから、尊厳死には賛成である。 ・本人の意思も残された家族の気持ちも十分にわかるので、賛成とも反対とも言いづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SKYメニューのポジショニングを活用することで、全員の人の考えを可視化できるようにする。 ・話し合う時間を十分確保し、全員が主体的に授業に参加できるようにする。 ・友達の意見の内容をよく聞き、自分と違う理由はメモし、考えを広げるよう助言する。 <p>◎今を生きる自分という存在の大切さに気付き、自他の生命を尊重しようとする態度の大切さに気付いたか。 (観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導でどちらとも選べない生徒にもそのままの考えを書くよう助言する。
<p>終末</p>	<p>5 考えたことをワークシートにまとめる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・説話をし、余韻をもって終わらせる。